

三宮(さんのみや)神社

●「三宮町 (さんのみやちょう)」の由来



旧神戸村の氏神で、祭神は湍津姫命（たきつひめのみこと）。生田裔神（えいしん）八社のうちの一つであるが、創建年代は不明である。

三宮という地名はこの神社があることに由来する。

神社のすぐ南の東西に走る道が西国街道で、かつては深い木々におおわれ旅人の憩いの地となっていた。また、神戸開港後は、境内から湧き出る清水を神戸に

入港する船が汲んでいったという。なお、境内には源平合戦・一ノ谷の戦いの中、生田の森で戦死した源氏方の河原太郎・次郎兄弟を祀る「河原霊社」や「従是河原兄弟塚」の碑、神戸事件を伝える石碑が建っている。



河原霊社

場所：神戸市中央区三宮町2丁目4-4

◆神戸事件発生地石碑（三宮神社境内隅）

三宮神社境内南西隅に「史蹟 神戸事件発生地」の碑が建っている。三宮神社のすぐ南を西国街道が走り、それを隔てて南側一帯は外国人居留地であった。こうしたなか、江戸幕府滅亡直後に事件は起こった。1868（明治1）年1月11日のことである。その



日、西宮警備へ向うため備前藩の行列が西国街道を東へと行進していた。行列が三宮神社付近にさしかかった時、突然外国人が行列を横断しようとしたので無礼を怒った藩士がその外国人を傷つけたのがもとで当時港に停泊中の軍艦から外国兵が上陸し、交戦状態となり、外国兵は神戸を占領してしまった。世に言う「神戸事件」である。明治新政府は勅使東久世通禧（ひがしくせみちとみ）を派遣し、事件の解決にあたらせたが、結局、備前藩家老の日置帯刀が謹慎となり、備前藩士 滝善三郎正信は切腹処分となった。滝は2月9日、兵庫永福寺で外国人立ち会いのもと切腹し、事件は解決したのである。

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著